



第90回 東京箱根間往復大学駅伝競走

「最優秀選手賞 金栗四三杯」の 贈呈にあたって

東京箱根間往復大学駅伝競走は、日本人初のオリンピック選手であり、「日本マラソンの父」と称される故・金栗四三氏の発案によるもので、「日本の長距離・マラソンを強くしたい」という思いから始められたものです。

金栗氏は1891年(明治24年)、熊本県玉名郡春富村(現・和水町)で生をうけ、旧制玉名中学を卒業後、東京高等師範学校(現・筑波大学)に進学。在学中の1911年(明治44年)、翌年に控えたストックホルム五輪国内予選会において当時の世界記録(25マイル)2時間32分45秒を樹立されました。1912年、日本人として初めて参加した第5回ストックホルム五輪では、記録的な暑さにより26.7km地点で意識不明となり近くの民家で介抱されることになってしまいます。またその後も、第7回アントワープ五輪、第8回パリ五輪にも日本マラソン代表として出場されますが、決して満足の行く結果は残されませんでした。しかし、その悔しさをバネに、また自らが得た経験を糧に高地トレーニングの導入や富士登山マラソン競走の実施、全国の学校を巡り学校対抗のマラソン大会や駅伝競走を行うなどマラソン普及に心血を注ぎ日本マラソン界の礎を築かれました。きっと今もなお、箱根駅伝を走る皆さん方の雄姿を、天国から拍手を送りながら応援されていることだと思います。

なお、箱根駅伝の最優秀選手賞として寄贈する優勝カップは、金栗氏が1911年ストックホルム五輪国内予選会で世界記録を樹立した際に受賞した優勝カップを複製したものであり、「箱根駅伝での活躍をステップに、さらに世界へ羽ばたいて欲しい」という願いをこめて、金栗氏の生誕の地である熊本県和水町が第80回大会から寄贈しているものです。

(左上 写真 ペナントリボン付きの優勝カップを複製したものを金栗杯として寄贈)

最後になりましたが、東京箱根間往復大学駅伝競走の今後益々のご発展と、関東学生陸上競技連盟等関係機関のご活躍をご祈念申し上げます。

2014年1月3日

なごみまち
熊本県和水町

和水町長 坂梨豊昭

金栗四三年譜

～ 金栗SPIRIT 体力・氣力・努力 ～

明治24年8月20日	熊本県玉名郡春富村(現・和水町)にて父信彦・母シエの間に誕生。父信彦が43歳の時に生まれたので四三と命名される。	昭和5年	お茶の水高師の教壇に立つ。
30年	熊本県玉名郡春富村吉地尋常小学校(現・和水町立春富小学校)入学	6年 (40歳)	故郷熊本へ帰る、栗木義彦氏と九州一周走破。学校を巡り学校対抗のマラソン大会や駅伝競走をするなど県内外においてマラソン普及に尽力。
34年	玉名北高等学校(現・南関町立南関第三小学校)入学(毎日、通学路をひた走る)。	16年 3月	青葉高女に移り、女子体育振興に努める。
38年	旧制玉名中学校(現・熊本県立玉名高校)入学	20年 3月(53歳)	再び故郷熊本へ。
43年	東京高等師範学校(現・筑波大学)入学、校長は嘉納治五郎氏。	21年 4月	宇土虎雄・吉田三二氏らと熊本県体育会をつくり、初代会長に就任(昭和26年県体育協会となる)。
44年11月 (20歳)	オリンピック国内予選で世界記録2時間32分45秒達成。	22年 12月	第1回金栗賞朝日マラソン熊本市で開催のちに福岡国際マラソン選手権大会となる)。
45年 7月	第5回オリンピック・ストックホルム大会マラソンに日本人初の出場、猛暑のため意識を失い、26.7キロ地点で倒れる。	23年 11月 (57歳)	熊本県初代教育委員長に就任。
大正2年	東京高等師範高等学年、徒歩部室長となる。	24年 2月	西部マラソン20キロ大会佐世保において開催。
2年11月 (22歳)	第1回陸上競技選手権出場、世界記録2時間31分28秒達成。	27年	熊日社会賞受賞
3年 春	酒部家の養子となり、春野スズと結婚。しかし終生「金栗」を名乗る。	27年 11月	九州一周駅伝を企画
3年11月 (23歳)	第2回陸上競技選手権大会出場、世界記録2時間19分30秒達成。	28年 (62歳)	西日本文化賞受賞。第57回ボストンマラソン日本監督となり山田敏蔵が世界記録2時間18分51秒で優勝。
4年 秋	大日本体育協会から功労賞	30年 11月	紫綬褒章受章
5年	神奈川師範学校赴任(担当科目・地理)。	32年 3月 (65歳)	紫綬褒章受章を記念して熊日30キロ招待マラソン開催。
6年 (25歳)	独逸学協会中学校に移る、高地トレーニングを始める。	32年 11月	熊本県近代文化功労者として表彰。
6年 4月	日本初の駅伝奥都記念東海道五十三次駅伝競走を企画、アンカーをつとめ優勝。大日本体育協会から功労賞。	33年	朝日文化賞受賞
8年7月～8月	秋葉谷之と下関一東京間1200キロを20日間で走破。	34年 6月 (67歳)	第11回西部マラソン30キロ大会玉名市で開催し、同市に定着。
8年 11月	日光一東京130キロを10時間で完走。	35年 10月 (69歳)	第15回国民体育大会熊本で開催、最終聖火ランナーとして走る。
9年 2月	第1回関東東大箱根往復駅伝競走を開催。	35年 11月	勲四等旭日小綬章受章
9年 8月 (29歳)	第7回オリンピック・アントワープ大会マラソン出場16位、2時間48分45秒。	42年 (75歳)	スウェーデン・オリンピック委員会の招きによりスウェーデン訪問、54年8ヶ月6日5時間32分20秒3、半世紀目のゴールをはたす。
10年	女子体育の振興の必要性を感じ東京女子師範学校へ奉職。	47年 1月 (80歳)	熊本走ろう会発足、初代名誉会長に就任。
11年 8月	樺太一東京間を20日間で走破。	58年	従五位銀杯下賜
13年7月 (33歳)	第8回オリンピック・パリ大会マラソン出場、32.3キロ付近で意識不明となり落伍、大会後第一線から引退。	58年11月13日	92歳で永眠。